研究テーマ：全学共通教育科目「地域の理解」を対象とし、全学集約型エフォートを介した全学的教育改善への取り組み	
研究代表者（職氏名）：保健福祉学部・コミュニケーション障害学科・教授・友定賢治	連絡先　0848-60-1159 （E-mail 等）：tomosada@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者（職氏名）：生命環境学部・環境科学科・教授・中村　健一、経営情報学部・経営情報学科・准教授・小川仁士、総合教育センター・助教・木本尚美	

１　平成 19 年度の課題

本研究は、全学共通教育科目「地域の理解」を実施する中で顕在化してきた問題の改善を目的として、平成 18 年度に始まった。３キャンパスの遠隔講義、大人数、大教室といった状況から生じる問題、遠隔講義での効果的な授業実施方法等が主な問題であるが、詳細は『2006(平成 18 年)年度「地域の理解」授業実施報告書』をご参照願いたい。

平成 19 年度は、平成 18 年度からの継続として、下記のような課題をもって研究を実施した。

① 授業の満足感を高める。
② 『遠隔講義マニュアル』の作成
③ オンデマンド式授業公開システムの試作
④ 「地域の理解」のカリキュラム全体における位置づけの確立
⑤ 他大学での、地域との連携による授業実施方法の情報収集

以下、これらの課題についての成果を整理しておく。

２　平成 19 年度の研究成果

(1)授業に対する満足感を高める

授業担当者による打ち合わせ、授業実施、授業評価、受講感想文の分析等を行った。

授業内容も多彩で、教員・自治体・企業・ＮＰＯなどで構成されている。授業評価・受講感想文なども、毎年評価が高くなってきており、ＦＤの効果も確実に得られている。特記すべきは、受講感想文の中で、前年度までは見られた、当科目の意図する「広島という地域の理解」を否定するようなマイナス評価のものがなくなったことである。さらに、印象に残った授業として書いているのが、前年度までは、１５回の授業のすべてがあがってはいなかったが、今年度のものでは、すべてのものが書かれていたことである。

この研究の大きな課題であった、ＦＤとしての意義は確実に成果があがっていると考える。

(2)『遠隔講義マニュアル　暫定版』の作成（平成 19 年 12 月）

暫定版ではあるが、平成 19 年 12 月に出来上がった。「地域の理解」での問題意識が核となって、平成 19,年度第一回ＦＤ研修会の分科会で取り上げられ、そこでの意見などを参考にしている。機器の更新があったので、それに即したマニュアル作成が急務であるが、机上で簡単に利用できる機器操作マニュアルと、より授業効果をあげるためのマニュアルとを作成したい。

また、これは本研究の直接的な課題ではないが、遠隔講義システムの利用促進策を考える必要がある。

(3)オンデマンドでの授業公開システム構築（平成 20 年 3 月）

学内公開ではあるが、サーバーを設置して、オンデマンドで授業を見ることができるシステムを試作した。平成 20 度に一層の改良を重ねて、なるべく早くに公開したい。

(4)カリキュラム全体における位置づけ

平成 19 年度、当科目を核として、特色ＧＰに申請したが不採用であった。審査意見の中で、当科目がカリキュラム全体の中にどのように位置づけられているのか不明であるとの指摘があった。

この点についての考察をすすめ、本学キャリア教育として「広島ブランド人材の養成」をかかげ、その教育システムに位置づける案をまとめて、平成 20 年度もＧＰに申請することとした。

(５)他大学の取組視察（平成 19 年 2 月）

地域関係の授業や取組が、他大学でどのように行われているかを知るため、平成 19 年度大学教育改革プログラム合同フォーラムに参加し、大きな刺激をうけた。本学の理念からも、地域との協働は不可欠であり、活発化する方策を考えていきたい。

３　平成 20 年度の課題

〇予定通りに実施できなかった計画

・地域・企業の講師を招いてのシンポジウム

ア　完成年度以降の「地域の理解」の内容決定

イ『遠隔講義マニュアル』の完成

ウ　授業公開システムの確立

エ　これまでの授業内容をまとめ、『県立広島大学授業報告　広島を知る』(仮題)の出版、あるいは公開講座の開催